

# DKSがめざす「2030年のありたい姿」

地球温暖化、資源の枯渇など環境問題、少子高齢化などさまざまな社会課題が私たちの暮らしを取り巻く中、DKSは、「ユニ・トップ」戦略を掲げる研究開発型企业としてお客さまのニーズにお応えし、総合提案力で選ばれることを目標としています。

新中計「SMART 2030」達成に向け、社員の成長とチャレンジを重視し、取り組み意欲の向上と健康経営を推進しながら、環境や生活の安全性や快適性などを高めるため、「こたえる、化学。」を追求します。



パーパス  
**Purpose**  
「存在意義」

- デジタル社会  
電子・情報
- 脱炭素社会  
環境・エネルギー
- 健康社会  
ライフ・ウェルネス
- 循環型社会  
コア・マテリアル

## 産業を通じて、国家・社会に貢献する

ミッション  
**Mission**  
「使命」

- 電子・情報**：新しい技術や製品を開発し、デジタル社会に貢献
- 環境・エネルギー**：環境負荷の少ない材料を提案し、脱炭素社会を推進
- ライフ・ウェルネス**：健康に配慮した製品・サービスを通じ、暮らし・健康を守る
- コア・マテリアル**：基盤技術を活かし、持続可能な循環型社会の実現に貢献

## こたえる、化学。

- Sustainability** サステナビリティ “持続可能性”
- Mission** ミッション “使命”
- Action** アクション “行動”
- Reliability** リライアビリティ “信頼性”
- Transformation** トランスフォーメーション “変容”

ビジョン  
**Vision**  
「展望」

**SMART 2030** 社会のさまざまな課題を解決するスマート・ケミカルパートナー

バリュー  
**Value**  
「行動基準」

- 1. 社訓に基づく価値の提供** 「品質第一」、「原価通減」、「研究努力」に基づいた事業活動
- 2. つくる責任、つかう責任** 地球環境を守り、持続可能な社会の実現に貢献
- 3. 共感、尊重、成長** 社員・顧客・パートナーと共感、尊重し、ともに成長

# 知っていただきたいこと

## DKSレポート2025年版について

DKSレポート2025は、ステークホルダーの皆さまに、以下の4つのポイントを知っていただきたく、制作しました。

## 4つのポイント

**1 2030年のありたい姿**  
 社会の地球温暖化、資源の枯渇など環境問題、少子高齢化などさまざまな社会課題が私たちの暮らしを取り巻いています。当社は、環境や生活の安全性や快適性などを高めるため、「こたえる、化学。」を追求し、「社会のさまざまな課題を解決するスマート・ケミカルパートナー」として応えていきます。

代表取締役社長 山路 直貴 P.8~13



**3 サステナビリティ**  
 化学業界では、環境負荷の低減と循環型経済への転換が求められています。バイオ素材の開発、リサイクル技術の革新、エネルギー効率の向上、GX、DXの推進を進め、人的資本を含む無形資産の最大化と企業の成長を連動させる変革実行をマテリアリティの進捗で実証しています。

代表取締役常務取締役 清水 伸二 P.31~34、63



**2 新中期経営計画「SMART 2030」について**  
 企業価値のさらなる創造を行い、行動規範を整え人財の充実に取り組みます。「ユニ・トップ」、「サステナビリティ」、「チャレンジ」の3つをキーワードとし、人的資本を含む無形資産の最大化と企業の成長を連動させる変革実行を骨子とします。

取締役 坂本 真美 P.25~30、60



**4 ガバナンスの深化**  
 DKSのガバナンス改革はまだ発展途上です。コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方としては、社会から信頼を得られる経営基盤の確立をめざし、企業の社会的責任（CSR）に根ざした透明かつ公正な企業活動を行うため、ガバナンスの深化を最重要課題の一つとして位置づけ、取り組んでいます。

社外取締役 中野 秀代 P.27~28、72~77



目次

### 「こたえる、化学。」で価値を創出し続けるしくみ

- 1 DKSがめざす「2030年のありたい姿」
- 2 知っていただきたいこと / 目次 / 編集方針
- 4 理念の実践～社会の変化とDKSの発展～
- 6 DKSの存在意義と2030年のありたい姿

### スマート・ケミカルパートナー実現への戦略

- 8 社長メッセージ
- 14 DKSグループの価値創造プロセス
- 16 価値創造プロセス解説
- 18 リスクと機会
- 20 マテリアリティ
- 22 財務・非財務ハイライト

### 戦略

- 24 中期経営計画の振り返り
- 25 新中期経営計画 SMART 2030概要
- 31 新中期経営計画 SMART 2030：財務・資本戦略

- 35 事業戦略
- 36 事業概況と事業別施策
  - 36 電子・情報
  - 38 環境・エネルギー
  - 40 ライフ・ウェルネス
  - 42 コア・マテリアル
- 44 京都中央研究所長メッセージ
- 46 研究戦略・知的財産戦略
- 50 研究開発体制の変革と未来に向けた挑戦
- 52 開発と生産をつなぐ生産技術研究所
- 54 人財マネジメント
- 58 DX戦略

### サステナビリティの取り組み

- 60 役員座談会  
SMART 2030が示すサステナビリティ経営
- 64 環境への配慮
- 66 気候変動への取り組み
- 68 人権尊重の取り組み
- 69 協働社会への貢献

- 70 ステークホルダーエンゲージメント
- 71 ステークホルダーとの対話
- 72 ガバナンスの深化
- 78 品質マネジメント
- 80 取締役・監査役・執行役員一覧

### データセクション

- 82 保有技術
- 84 界面活性剤の基礎知識
- 86 用語集
- 88 国内・海外ネットワーク
- 90 11年間の財務・非財務サマリー
- 92 会社概要
- 93 真正性表明 / 編集後記

### WEB掲載

ESGデータブック  
<https://www.dks-web.co.jp/sustainability/>



### DKSレポート2025 編集方針

第一工業製薬グループは、2016年、従来の環境・社会活動報告書に財務や経営戦略の情報を加えた「DKSレポート」を発行しました。そして2017年より、国際統合報告評議会（IIRC®）「国際統合報告フレームワーク」を参考に制作しています。

また、継続して英語版も発行しています。事業の国際化が進展する中で、海外のステークホルダーの皆さまへも、DKSの持続的成長に関わるESG・非財務情報の開示をはじめ、経営ビジョン、事業成果、成長戦略、資本政策などをお伝えすることが狙いです。

本レポートでは、統合報告の目的である短中長期にわたる価値創造をお伝えできるよう、企業価値を高める「見えない資産」を可視化することで、当社の現状と将来への道筋を説明しようと試みました。今後は、このレポートをステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールとして活用していきます。

なお、DKSグループの財務・非財務に関する詳しい情報については当社ホームページをご覧ください。  
 ※ 2022年6月、IIRCはIFRS財団のISSBに統合されました。

**報告書対象組織** 第一工業製薬株式会社およびグループ会社

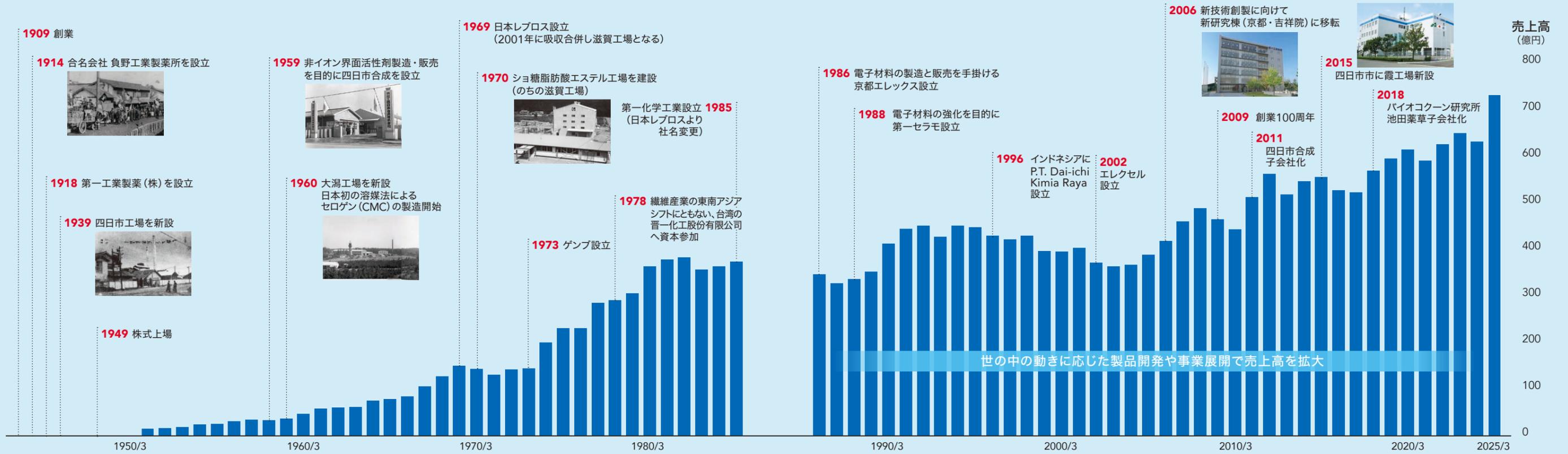
**報告書対象期間** 原則として2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）の活動およびデータを記載しています。

**参考としたガイドライン** 国際会計基準（IFRS）財団「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス 2.0」、環境省「環境報告ガイドライン 2018年版」、環境省「環境会計ガイドライン2005年版」、（社）日本化学工業協会「化学企業のための環境会計ガイドライン（2003年11月）」

### 【将来見直しに関する注意事項】

本レポートに記載されている当社の現在の計画、予測、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の実績などに関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでいます。そのため、実際の業績につきましては、さまざまな外部環境の要因により、これら見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんので、ご承知おきください。

# 理念の実践 ～社会の変化とDKSの発展～



## 社会の変化とそれに応えるDKSの製品

### 1900年代

#### 紡績業が飛躍的成長

第一次世界大戦を契機に紡績業が飛躍的成長。繊維製品は日本の輸出の50%を超える。

- 1909 紡績用薬剤蚕繭解舒液「シルクリーラー®」
- 1915 繊維用工業石鹼「玄武マルセル®石鹼」



当社の商標 (左から青龍・朱雀・白虎・玄武)

### 1930-1950年代

#### 産業の近代化と合成繊維へのシフト

第一次世界大戦後、産業の近代化が進み、繊維業界も天然繊維から合成繊維へのシフトが加速。

- 1934 高級アルコール洗剤「DKS300番」(のちのモノゲン®)
- 1950 合成糊料「セロゲン®」
- 非イオン界面活性剤「ノイゲン®」
- 陽イオン界面活性剤「カチオーゲン®」



当時の主要製品

### 1960-1990年代

#### 環境・安全意識の高まりによる素材の高付加価値化

70年代の石油危機などを経て製品の高付加価値化が進展。90年代には環境配慮や安全性に関心が高まり、既存素材の高機能化が加速。

- 1969 プラスチック用難燃剤「ピロガード®」
- 1970 食品用乳化剤「DKエステル®」
- 1981 UV・EB硬化モノマー・オリゴマー「ニューフロンティア®」
- 1982 ポリウレタン水分散体「スーパーフレックス®」
- 1990 ポリウレタン樹脂「エイムフレックス®」
- 1992 反応性界面活性剤「アクアロン®」

### 2000年代

#### 社会的課題を解決する高機能化学分野が進展

日本の化学業界においては社会に対して積極的に付加価値を創造、提案していく高機能化学分野が進展。

- 2005 イオン液体「エレクセル®IL」
- 2013 セルロースナノファイバー「レオクリスタ®」
- 2017 ポリ乳酸用改質剤「TRIBIO®」
- 2018 健康食品「カイク冬虫夏草®」、スタチン果皮抽出粉末「Sudachin®」
- 2021 認知機能の改善が期待される新規有用成分「ナトリード®」を発表
- 2022 健康食品「天虫花草®」
- 2023 機能性表示食品「快脳冬虫夏草®」、消臭・除菌スプレー「NIOCAN®」

## DKSの発展

### 1909年～1950年代

#### 油剤メーカーとしての創業。総合的化学品メーカーをめざす

- 1909年、「第一工業精神」を理念に、屑繭の紡績用薬剤「蚕繭解舒液」の開発・販売で創業。
- 1915年、輸入に全面依存していた繊維工業用石鹼市場に初の国産石鹼玄武マルセル®石鹼を投入。

### 1960年代

#### 将来の成長基盤確立へ

- 1960年、工業分野の価格競争が激化する中、工業品の

拡充と多角化を推進。石油化学工業の川下に位置するウレタン工業分野の将来性に期待し、ポリエーテル事業に着手。難燃剤やシヨ糖脂肪酸エステルなど将来の基盤となる事業を相次いで立ち上げ。

### 1980年～1990年代

#### 高機能化学品のリーディングカンパニーへ

- 製品の付加価値化をめざし、「資源・エネルギー」「電子・情報産業」「食品・医薬・化粧品」「新素材」を重点項目として研究開発を強化。

## DKSを形づくる土台

### 第一工業精神と社訓

「われらは、日本国民の伝統精神たる大和魂を産業上に発揮し、常に奉仕観念を以て、自他の共存共栄を実現し、国家、社会、人類の繁栄に資せんとする誠心を堅持することを要す。」を第一工業精神とし、これを顕現するために「品質第一」「原価削減」「研究努力」の実行に努めよとする誠心は、いまま脈々と受け継がれている。

### 原価削減への思い

製造家として奉仕の精神を真に発揚する場合において、単に良品を製造するのみではなく、「良品の存在を広く大衆に知らしめる」と同時に「良品を大衆が不便なく購買し、消費し得るように配給すること」と創業者は言い残している。創業当時から原価削減を追求するだけではなく、世のため人のために商売するという考え方が根づいている。

### 品質尊重の社風

1922年に早くも製品規格の整備統一を実施、品質チェックは研究係がその責任を負うと職務分掌に明記した。1951年には品質管理委員会を設置し、組織整備とともに品質尊重の社風が培われた。1960年代にQCサークルが活発化し、若手技術者を中心に全国工場で開催、1974年には活動が一本化され、研究努力と相まって「技術の一工」の声価を確定的なものとした。

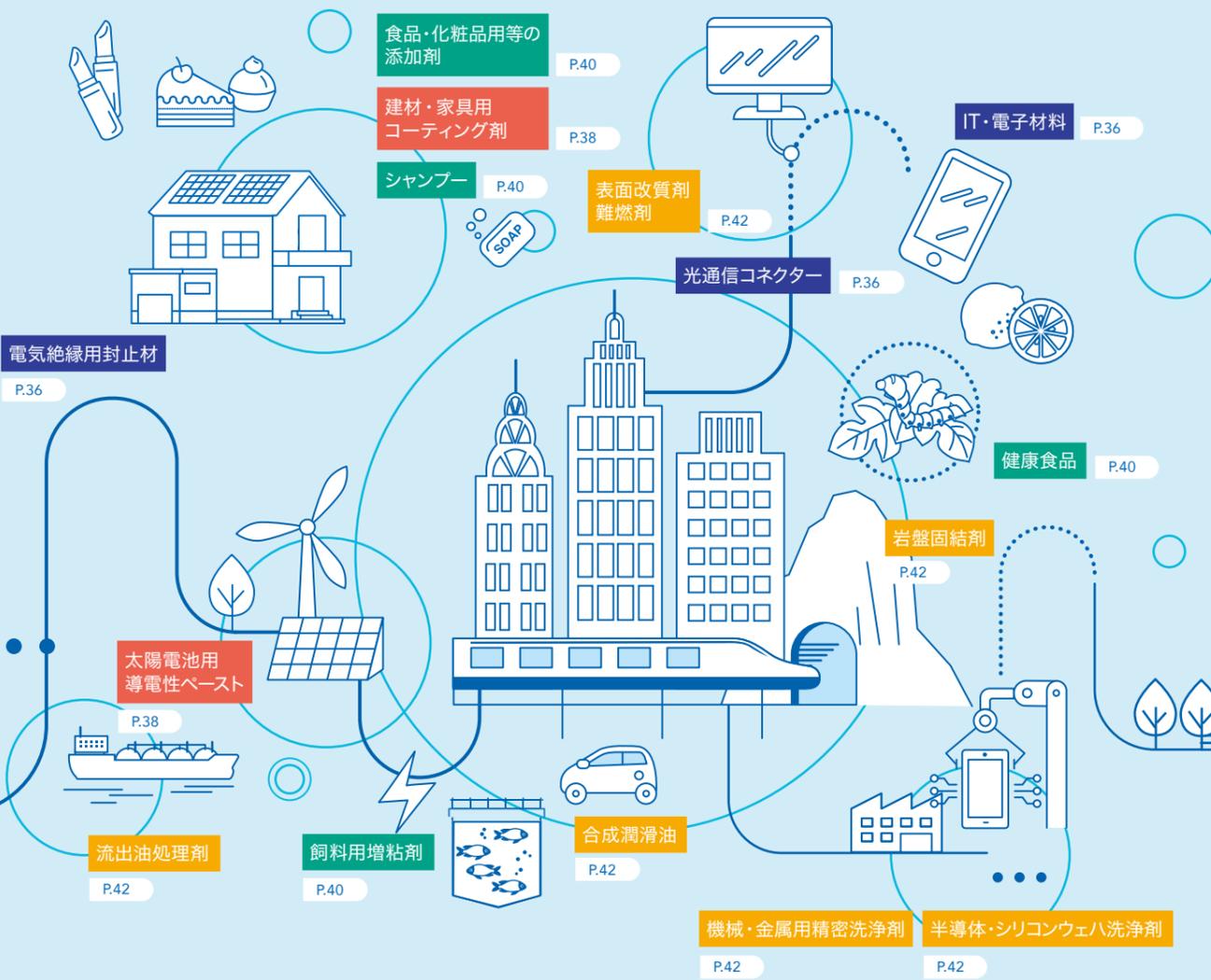
### 独創技術の源泉

第一次世界大戦の戦後不況の中、1918年に試験室を設け、1919年に研究奨励規定、1920年に「発明者表彰規定」を相次ぎ制定し、新製品創製を奨励。優れた新製品・特許を創出し、「研究努力」の実行に努めた。2002年、他社に先駆けて特許報奨制度を実施し、現在のライフサイエンス事業など、新事業の開発、創出に貢献している。

# DKSの存在意義と2030年のありたい姿

暮らしの中で  
役立つ製品

当社の製品は、私たちの暮らしの中でさまざまな製品の素材や部材に活用されています。社会・生活環境の場面から一例を紹介します。



2030年の  
ありたい姿

2030年の日本は、労働人口の減少、少子・高齢化により雇用や医療・社会保障に大きな影響が出るという社会問題を抱えています。また、地球温暖化や海洋ゴミ問題、生物多様性の消失、気候変動などの環境問題も企業の重要課題です。当社は、化学の力で社会のさまざまな課題を解決するスマート・ケミカルパートナーをめざします。



## 4つの事業セグメント

当社は、2030年に向けた成長戦略の一環として、開示セグメントの見直しを行いました。従来の「材料別」の6つのセグメントから、市場や用途に基づいた「分野別」のセグメントへと再編することで、顧客との関係性をより深め、潜在的なニーズを掘り起こし、的確な課題解決の提案につなげていきます。この取り組みにより、DKSが目指すべき姿をより明確にし、持続的な成長に向けた基盤を強化します。



デジタル社会  
電子・情報

パソコン・スマートフォン等のIT・電子材料に使用される部品などに高機能的な性能を付与する材料を提供しています。



脱炭素社会  
環境・エネルギー

脱炭素社会、環境負荷低減への貢献を軸にSDGsやカーボンニュートラルに向けた取り組みを進めています。環境に優しい製品、エネルギー分野対応製品を提案します。



健康社会  
ライフ・ウェルネス

健康社会への貢献を目指し、生活環境において快適性を高める材料や周辺技術を提供しています。洗剤、化粧品、食品、医薬、消臭・脱臭、健康食品など、私たちの生活を取り巻く分野で幅広く活用されています。



循環型社会  
コア・マテリアル

第一工業製薬の製品は、私たちの日常生活において多様な素材や部材に広く利用され、より便利で快適な環境を実現しています。